

10/11 12:51

取扱注意 公開不可

情報共有

非管理メモ

NISA非 ← 対応中心

(2枚)

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 10 月 11 日 (火) 11:00~11:15

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 15 名 (カメラ 3 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (10 月 11 日 6:00 現在)

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 震災から 7 ヶ月が経過したが、本日までの作業状況に対する評価を教えてください。

A. 本日で震災発生から 7 ヶ月という節目の日となったが、現在も事故の収束に向けて全力で取り組んでいるところである。冷温停止の達成に向け、圧力容器の温度、放射性物質の放出の抑制の管理の 2 点が重要な課題であるが、一定の目処が立ちつつあると考えている。年内の冷温停止の達成に向けて引き続き努力して参りたい。

Q. 福島第二原子力発電所のモニタリングポストの取り替え工事について、詳しく教えてください。

A. 福島第二原子力発電所の敷地境界に計 7 基あるモニタリングポストのうち、NO. 6 を交換する。当該計器は震災時に津波の影響により、本体と制御盤、電送装置の一部が浸水した。当該工事は機器の保全のための交換で、当初より計画を立てていたものであり、今回、準備整ったため工事を実施する。本日から新検出器の仮置きを実施し、明日より動作試験、明後日から取り替え準備作業に着手する予定である。

Q. 温度の測定について一定の目途たったとのことだが、冷温停止について見通しがついたという理解でよいか。

A. 現在の圧力容器下部の温度は概ね 100℃以下であり、建屋から放出される放射性物質についても評価を進めている状況。抑制と管理については目途が立ちつつあるものと考えているが、詳細については今月の道筋において紹介できるのではないかと思っている。また、保安院から安全確保の考え方が示されており、施設運営計画のうち循環冷却については 10 月 17 日、その他についてはそれ以降速やかに報告することとなっており、ステップ 2 以降も冷温停止の状況が確実になることをお示しできると考えている。

Q. 循環冷却システムに関する安全確保については、どのようなことを確認しているのか。

A. 現在取り纏め中であるが、保安院から示されている安全確保の考え方に従って、設備への要求事項に対する仕様やスペック、トラブル発生時の対応、バックアップとしてどのような事が必要になるかなど、取り纏めているところ。

Q. 検討内容はこれまでに公表されていることのベースに詳細な評価しているという理解で良いか。

A. 循環冷却システムにおいて、現状も抜本的に欠けているものがあるのではなく、バックアップ用のポンプや消防車などについて仕様や故障した際の対応を検討している状況である。

Q. 1号機の建屋カバー設置工事について、具体的な完成時期の見通しは。

A. 建屋カバーについては、本日の午前中に屋根1ピースの取り付けを行い、今後、残りの3ピースは天候を見ながら設置する。作業としては、排気ダクトの試運転や照明・カメラの確認もあり、建屋カバー設置工事全体としては10月中旬に完成の予定である。

Q. 2, 3号機の配管内の水素濃度測定の見通しは。

A. まだ具体的な作業計画ができていないので、決まり次第お知らせしたい。

以 上